



隆達の小唄

音馬生

口に唱へる事は、それが訪ひ、嵐山の雲等夜よる
 佛への祈禱となり、眞理の語つてのさへ、鼓ヶ
 (欣求となり、佛性の開發に來て、昔年の岩の
 となり、信念の増進となり)つまひ、水の音に思ひ出
 懐懐反省の資となり、解脚もかなしく、蛙が早鳴
 行脚の上で役立つ故にこそ、細かかると、赤筋
 子細なのであつて、唯いたを童子の如く一人て吹
 づらに口さきのみ大聲に、かかると、かかると、
 へてそれで萬事が終るまに、電燈を待ち得るまに
 の、解してけならぬ管で、
 のであつた。

迎夏
 田花世

鼓ヶ流
 少年の頭、多と共、半
 舟を川添ひの道を歩んだ
 は無事であつたらうか。又
 舟じやうに、母とも、道
 を行つた事がある。日乾上
 來の能勢の僧院に詣る
 程であつた。紅い夢のや
 な合歡の花や、うす白い
 雲ふよふ悲しさを胸を
 つかした。そうして、この
 道も鼓ヶ流に來て、巨岩に
 響する水聲を聞いては、い
 つもやわ／＼といふ氣持に
 なるのであつた。

荔枝の實
 木 桓 夫

○新枝に苦熱をさるる露は遠離り來し泪ぐまし
 ○砂灼けて歩みなつた陽の照りにともに疲るる
 軍馬いたはりぬ
 ○確架なき攀ぢれる山に兵馬も汗垂りあぐわい
 くさ烈しき
 ○水脈くろく河明りする前線の彈丸散れくる様に
 待機す(戦線談をきく)

夕刊
 行發 六十 月 七

夜嵐お絹

日蓮

恐人に寝めらるゝは第
 一の耻なり

是は難問
 簡井直衛

お絹は氣をつくる。時に
 おきぬ武士たるものが一度
 鞘を拂つた此刀、血を引す
 て收める事は成らぬが
 定め、貴様は是いつては
 考へもあらう、それを申
 せ

越して窓から忍んでお出で
 なることは、此事が表沙汰
 「何んです、そんな分ら
 ないことを言つて、今日の
 は親方が不在なんです、棒
 親方が居たらば、何んは
 次さんが頼むと此の、わ
 階庫敷は貸します、親を
 方が不在で女将さんが頼
 て服へ言へ貸した、思召
 ですよ、まあ旦那考へて
 覽なさい、藝妓が藝人と
 ぶ之は珍らしい事ではあ
 ますまい、それを貴方が
 を立て、二人を斬るとか
 又當家の親方の首まで持
 行かうとは不詳です、ア
 あなたは立派な御役人況し
 御奉行様、人のしな善悪
 調べる御役目でありなが
 如何に色慾に例巧な人も
 美しい手では無いですか

お絹は氣をつくる。時に
 おきぬ武士たるものが一度
 鞘を拂つた此刀、血を引す
 て收める事は成らぬが
 定め、貴様は是いつては
 考へもあらう、それを申
 せ



お絹は氣をつくる。時に
 おきぬ武士たるものが一度
 鞘を拂つた此刀、血を引す
 て收める事は成らぬが
 定め、貴様は是いつては
 考へもあらう、それを申
 せ

平みやげ
 磐城平の名所地が
 一目でわかる
 米屋の名物最中
 風味自まんの米屋の最中
 米屋最中
 米屋最中

婦人科科門專
 平市南町
 根本醫院
 (入院隨時) 電話三四番

初夏の味
 とんかつ専門の店
 興亜の春を前にどうぞ一層の
 御ひきで御引立をお願ひ致しま
 ▼出前は迅速に御つとめ致します
 平市仲町(電話四六五)

吉例土用丑
 牛肉大賣出し
 二十一日十用入り丑
 滋養豊富な牛肉を是非...
 平市田町

石川亭
 電話四十三番

御盆戒名入提灯の
 金子提灯屋へ
 才抽小路田町通り
 御注文は是非!!!
 塲所邊鄙と自製に依り、外様より
 御安く御願ひ致さ事が出来ます。

田毎の
 みつまめ
 白蜜と赤蜜
 あんみつ
 あんみつ
 電話632 田町

玉屋眼鏡店
 平市二

中等學校制服大特賣
 高島屋の洋服
 男女學生服
 新入荷
 並注文既製品
 高島屋
 平市二丁目
 電話三八六番

鈴木醫院
 日本齒科
 醫學士 鈴木 喜 政
 内郷村高坂醫院前

耳鼻咽喉科専門
 醫學士 鈴木 正 男
 平市田町(電話六一三番)
 (藤田女學校前)

鈴木醫院
 日本齒科
 醫學士 鈴木 喜 政
 内郷村高坂醫院前

便通のない日は
 あつてはならぬ!
 我々が口から食べた食物も、一旦、腸内へ
 溜として停滞すると、忽ち恐ろしい病
 して様々な毒をひき起します。
 曰く、頭痛、無氣力、ノ、嘔吐、便秘、
 へて腸内腐敗の仕業であらう。
 何分にも、我々の身長は四倍強の長さを持つ
 た腸内のことであり、その中に毒物が充
 満し、血液中に侵入して行く有様を想像し
 見れば、血液の大切さ、便毒の怖さも
 しない人はなすべからぬ。
 食物が、人間の消化器を通過して、排泄さ
 れる迄には、大體二十時間乃至二、三時間
 要するのであります。故に、健康人は日
 回、規則正しい便通がなければならぬ管
 あります。

腸内・残敵を掃蕩せよ!

便通のない日はあつてはならぬ!

我々が口から食べた食物も、一旦、腸内へ溜として停滞すると、忽ち恐ろしい病して様々な毒をひき起します。曰く、頭痛、無氣力、ノ、嘔吐、便秘、へて腸内腐敗の仕業であらう。何分にも、我々の身長は四倍強の長さを持つた腸内のことであり、その中に毒物が充満し、血液中に侵入して行く有様を想像し見れば、血液の大切さ、便毒の怖さもしない人はなすべからぬ。食物が、人間の消化器を通過して、排泄される迄には、大體二十時間乃至二、三時間要するのであります。故に、健康人は日回、規則正しい便通がなければならぬ管あります。

便通のない日からと言つて

直ぐに下剤を服用する人がありますが、大開通ひであり、下剤は、腸の活動力を弱め、恐るべき習慣性を作ります。酔剤の上を行く、我がミクローゼは、單なる便秘薬門薬ではありませんが、強力な各種消化酵素と胃イタミソの力によつて、腸の力を省き、腸動力を強め、消化吸収を助け、快い便通を齎す一大特徴を有して居ります。

ミクローゼは、前京都帝大醫學部助教授島田豊次郎先生が十八年に互る御研究の結果、母にまさる唯一のものとして認定された日本固有のヒルソ(有効菌)に據る胃腸強生剤であります。

東京・五反田 星製薬株式會社

